牡蠣養殖の取り組み

【はじめに】

宮城県松島湾の湾口部、桂島、野々島、寒風沢島、朴島の４つの有人島と260余島からなる浦戸諸島。風光明媚で穏やかな日本三景の一つ松島湾のど真ん中で俳聖芭蕉も**讃え**た島々が目の前に浮かぶ絶景地だ。伊達藩の江戸廻米の港として繁栄するも、今では若者の流失による高齢化や過疎化で衰退。また、今回の震災で島の存続さえ危ぶまれる。万葉の昔より、豊かな大自然を舞台に、この浦戸に住む人達が漁業で暮らしと歴史を育んできた。しかも、漁業を取り巻く環境は決して易しいものではありません。それでも漁業を続けている島民の皆さんのお陰で、〝**豊かなふるさとの自然環境**〟が守られ、美しい景観が維持されている。

東日本大震災より、浦戸桂島では80数軒の内、約半数の40件が流失または全壊以上の壊滅的な被害を受けた。また、海水浴場やハイキングコース、休憩所などの観光交流施設、それに基幹産業である牡蠣・海苔の養殖業に甚大な被害を受け交流活動が停止するなど従来の地域社会や地域経済の循環が失われ、これまでの取組やビジネスモデルの変更に迫られております。

桂島の復旧復興には自然を活用した交流人口の増加を図ること、養殖業の再生が重要である。本助成金への応募を通じ、養殖業の再生と地域コミュニティの再生し、雇用、人材育成などの社会課題を解決しながら、自立した新しい「ふるさと愛ランド」のモデルを形成したいと考えます。

【目的】

浦戸桂島の生活と産業を守るため漁業体験のツーリズムを企画し交流人口の増加を図る。その中から牡蠣養殖の長期見習いを実施する。島の受け入れ態勢を整備して、将来的に牡蠣養殖を生業として桂島へ移住して島の後継者になるよう育てる。

（※島の存続は、島内に普通の生活が出来る生業をつくること以外にない。）

１一世帯当たりが生計出来る規模の牡蠣養殖を始める。(筏3基1,000連)

牡蠣剥きは島のお婆ちゃん(65歳以上)の雇用、障害者の雇用で障害者支援に繋げる。

２交流人口を増やすため海水浴場「マイビーチ鬼ヶ浜」の開設とグリーン・ツーリズムを実施する。平成28年度10,000人の交流人を目標とする(27年度7,000人)

３島暮らしと漁業体験者を数名募集する。
漁業引退者を講師に後継者を育成して２名の移住者を確保する。

【事業計画】

「ふるさと島民」登録制度の確立と推進。

震災前に桂島に移住した(農水省のオーライニッポン・ライフスタイル受賞)経験を最大限に生かし、行政では手の届き難い「島暮らし」と「漁業体験」を行い必ず後継者を育成します。

1　漁業体験と島暮らしのグリーン・ツーリズムの企画・実施する。

2　牡蠣の直販ルートを開発する。

1. 剥き牡蠣生食用(500ℊ)と殻付き(ガンガン焼きセット)のネット販売。
2. 各職場の厚生部、生協を通しての直販。

3　牡蠣養殖見習者の発掘し、牡蠣養殖の後継者を育成する。

　 ※4月より牡蠣養殖見習いを採用(大場智行)。

4　海水浴場「マイビーチ鬼ヶ浜」を更に整備して継続する。

　 7月16日「マイビーチ鬼ヶ浜クリーン作戦」を実施、17日(日)海開き。

5　シェアハウス(交流ハウス)での交流。

【目指す方向】

「ふるさと島民」登録制度の確立と推進。

震災前に桂島に移住した(農水省のオーライニッポン・ライフスタイル受賞)経験を最大限に生かし、行政では手の届き難い「島暮らし」と「漁業体験」を行い必ず後継者を育成します。

1　漁業体験と島暮らしのグリーン・ツーリズムの企画・実施する。

2　牡蠣の生食用とガンガン焼きの直販ルートの開発。

3　牡蠣養殖見習者の発掘し、牡蠣養殖の後継者を育成する。

4　海水浴場「マイビーチ鬼ヶ浜」整備と海開き。

5　シェアハウス(交流ハウス)での交流。

新しい後継者(2名)が宮城県漁業共同組合(FA)の組合員の資格を取得。牡蠣漁師として独立する。また存続が心配された桂島の牡蠣養殖が続けられ、全国に松島湾の美味しい「生食用牡蠣」が流通する。それに伴い高齢で海の仕事・力仕事が出来なくなり引退したお爺ちゃん、お婆ちゃんにも出来る牡蠣剥きなどの仕事で働く生き甲斐を見つけ元気なお年寄りが増える。合言葉は65歳からお国のお世話になりますか？それとも島の宝物になりますか？

また、交流人口を増やすためグリーン・ツーリズム(島暮らしと漁業体験)も好評で県内外から大勢の人々にお出で頂き離島の素晴らしさを体験するようになり継続している。すでに今年から牡蠣養殖見習いをしている40歳代男性の牡蠣養殖の後継者として移住することが決定。5月中に住民票を桂島に移します。
課題は空き家がないので後継者の住む家の確保とグリーン・ツーリズムの人たち休憩所の確保。当分の間は合同会社「自然体験桂島」の交流ハウスを利用している。

【プロジェクトの意義】

このプロジェクトはただ単に牡蠣養殖の後継者を育成するだけではなく、ふるさと島民登録に結び付け存続が危ぶまれる離島の復興復旧で、島民に生きる希望を与えると共に日本三景「松島」の豊かな自然と離島の生活を守る大きなプロジェクトでもある。
〝なせばなる〟想像力が共通の目的と結び付き必要性が勇気と交わったとき、今まで到底出来ないと思っていることも、可能にする大きな力となる。そのことを考えるとこの胸がだんだん熱くなるのを覚える。これまでの素晴らしい人との出会いと学んだこと、経験したことを生かし、熱い熱い一念を持って、ことに当たれば、必ず「道は開ける」と確信している。もう一度原点に立ち帰り全島民の「絆」共生と協働で伝統を継承し、新しい暮らしの基盤をつくり、島のコミュニティを図る。

【5年後は・・・】

牡蠣の養殖業に後継者が育ち、その人たちによって桟橋付近に「牡蠣小屋㏌桂島」が開店。

牡蠣の最盛期には離島にも関わらず連日、大勢の観光客が来るようになりました。
船賃をかけてわざわざ桂島まで来てくれるお客さんのために以下の特典をつけます。

* 1. 2名様以上での場合帰りの船賃がサービスなります。
	2. 5名様以上で往復の船賃がサービスなります。